

第3回アメリカ研修報告（3日目）

富山中部高等学校

7月5日（火）、研修3日目は生憎の雨模様。今朝は各自朝食を取り、8時50分に集合。誰ひとり遅刻することなく、プレースメントテストによってクラス分けされた教室へ出発して行きました。日本人だけのClosed classはなく、全クラスInternational classとなります。初日の感想としては他国生の英語力、生徒主導で進んでいく授業に圧倒されたといった声が多く、生徒から出ていましたが、中部生としての誇りを自信に変えて、怯むことなく積極的に前に出ていくことを願います。



英語レッスンの様子

午後はMIT（マサチューセッツ工科大学）を訪問しました。Tufts大学最寄り駅のDavisからMIT最寄り駅のKendallまで約15分程です。研修がスタートして初めての地下鉄利用。切符は1週間のWeekly ticketを各自購入しますが、Davis駅に設置されている券売機は6台中3台のみが現金購入可能で、その他はカード社会のアメリカらしくCredit card onlyとなっています。40人全員が1人1人ticketを購入する時間を確保することは難しいため、自分で購入してみたい生徒は朝5時半に集合してDavis駅を訪れ、自分でチケットを買う体験をしました。

キャンパスツアーは東京大学 工学部学位取得後、MIT土木環境工学（Civil & Environmental Engineering）博士課程に在籍している遠藤礼子さんにお越し頂きました。MITのシンボルともいえるGreat Domeをはじめ、講義室、研究室、メディアラボを案内して頂き、生徒たちは広大なキャンパスに広がる個性豊かで先鋭的な建物、Great ideas change the worldの舞台となる研究室のオープンで専門的な雰囲気圧倒されているようでした。最後に20分程、講義室にて質疑応答の時間を取って頂き、生徒からは「日本とアメリカで遠藤さんが感じる一番の相違点は何か」、「どんなプロセスを経てMITに入学したのか」「いまの高校生に求められるものは何か」と数人の生徒から質問が出ていました。遠藤さんからは「高校生に必要なのは積極性と貪欲性。MITに入ることは想像できないかもしれないが、情報と準備さえあれば達成可能なこと。アメリカでは自分がいかにすごいかアピール出来なければいけない、Outputこそが全て」と遠藤さんらしい切り口でストレートに答えて頂きました。



MIT 遠藤さんとの座談会様子

MIT 遠藤さんによるキャンパスツアー



夜はEvening Activityに参加し、スポーツやボードゲームでの交流を楽しみました。

昨日の行動を生徒1人ひとりが考え、今日は集合時間への遅刻はありませんでした。本格的に英語クラスもスタートし、一部の生徒たちの中には期待していた研修と違う様に感じるがその原因は一体何なのか？と、研修への取り組み方に疑問を持ち始めている発信が見受けられます。個人としては出来ていても、チームとしてはどうなのか。研修期間は限られているからこそ、自分には興味がないから関係ない、ではなく自分や仲間の好奇心が何に反応するのか楽しみながらポジティブに研修に参加できるようなチーム作りをサポートして参りたいと思います。



イブニングアクティビティ